

早雲寺殿二十一箇条

| | 原文 | 意味 | 現代的解釈 |
|-------|-----------------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第一条 | 可信佛神事 | 神仏を信すこと | 心のよりどころとなるものを大切にしよう 第一に、自分の心のよりどころとなるものを信じ、感謝と敬う気持ちを忘れないようにしましょう。 |
| 第二条 | 朝早可起事 | 朝は早く起きること | 朝はしっかり早起きをしよう 朝の時間を大切にすると様々な準備ができるので、気持ちよく物事が進みます。逆に寝坊すると、気持ちが緩んだり慌ててしまったりして、やるべきことができず、信頼を失うことがあります。 |
| 第三条 | 夕早可寝事 | 夜は早く寝ること | 夜は早く寝よう 夜は早めに休んで、自分の体と心を整えましょう。だらだら起きていると、次の日に大切なことを逃してしまいます。きちんと休む人こそ、周りから信頼されるものです。 |
| 第四条 | 手水事 | 万事慎み深くすること | 何事にも慎み深くしよう ムダづかいやだらない態度は、周りに不快な思いをさせます。水や電気などの資源を大切に使うこと。また、家の中でも静かに落ちていた行動を心がけると、まわりの人も気持ちよく過ごせます。朝は身の回りを整え、教室や家中をきれいにしてから自分の準備をしましょう。 |
| 第五条 | 拝事 | 礼拝(はいれい)を欠かさぬこと | 素直で正直な心をもとう 心を正しく、やさしく保ち、上の人には感謝を、下の人には思いやることが大切です。ほしいものばかりを求めず、今あるものに目を向けて、まっすぐに生きることが、いちばんの「礼拝」です。 |
| 第六条 | 刀衣裳事 | 質素僕約を旨(むね)とすること | 見栄を張らず、身の丈に合った生活をしよう 持ち物や服装は人と比べてうらやましがる必要はありません。かっこい人や美しい人ほど、流行や人の持ち物や服装にとらわれず、今あるものを大切に使う人です。 |
| 第七条 | 結髪事 | 常に身だしなみを整えること | 身だしなみに気を配ろう 外出するときはもちろん、家にいるときなど人が見ていないときでも、清潔で整った身だしなみを心がけることが大切です。見苦しい姿は礼を欠き、まわりの人にも気もゆるませてしまいます。身だしなみは、自分の心を整える第一歩です。 |
| 第八条 | 出仕事 | 場の状況を見極めてから進み出ること | 場の空気を読んで行動をしよう たとえば、朝、出勤(登校)時に部屋へ入った瞬間、会った人にいきなり質問をしたり意見を言ったり、行動したりするのは失礼です。あいさつを交わした後は、まず静かに周囲の状況を見ましょう。よく見ずに動くと、思わぬ誤解を招いたり、場の雰囲気を乱したりしてしまうこともあります。 |
| 第九条 | 受上意時事 | 上意は謹んで受け、私見を挟まぬ | 仕事や役割を任せられたら、まずは素直に返事をして受け取ろう 指示や意見は、まずは真摯に聞き、自分勝手な解釈で行動しないようにしましょう。独断で判断して動くと、思わぬ問題を招くこともあります。また、仕事を終えた後に報告するときに、無理に自分を大きく見せようとしないことが大切です。 |
| 第十条 | 不可囁雜談虚笑事 | 雑談、談笑などを慎むこと | 雑談や談笑は、時と場を考えてしまう 真面目な場面や目上の人がいる場などでおしゃべりや無意味な笑いをしたり、ふざけたりすると、不快に思われることが多いあるばかりでなく、まわりの同僚や仲間からも信頼も大きく失うことがあります。 |
| 第十三条 | 諸事可任人事 | 何事も適切な者に任せること | 信頼できる人に仕事を任せよう 信頼できる仲間と協力すれば、より良い結果を生み、思わぬトラブルを避けることができます。何でも一人で抱え込む必要はありません。 |
| 第十二条 | 讀書事 | 書を読むこと | スキマ時間を見つけて本を読み、書く習慣を身につけよう 文字を見たり書いたりすることを日々の習慣にすることで、学んだことを忘れずに身につけることができます。世の中のことや教養を身につける努力をしよう。 |
| 第十四条 | 宿老祇候時禮儀事 | 礼儀を弁(わきま)えること | 目上の人の前や公共の場での態度やマナーに気を配ろう 遠慮のない態度は失礼です。誰に対しても、礼儀正しく正しい言葉遣いで丁寧に接することが大切です。 |
| 第十五条 | 不可申虛言事 | 嘘をつかぬこと | 嘘をついてはいけません 小さな嘘も積み重なると習慣になり、周りからの信頼を失ってしまいます。嘘はわかるものです。嘘をついていると人から思われることは、恥ずかしいことです。誠実な行動を重ねていきましょう。 |
| 第十六条 | 可學歌道事 | 歌道を学び品性を養うこと | 言葉を学び、芸術で心を豊かにしよう 和歌だけでなく、音楽や美術など、感性を磨く教養を身につけ、品性を養おう。学びのない人は品がなく見えてしまいます。また、常に注意を払って、思いやりのある言葉を選びましょう。 |
| 第十七条 | 乘馬事 | 乗馬の稽古を怠らぬこと | 運動を怠らないようにしよう 体を動かす練習は、毎日コツコツと続けましょう。基礎は達人や先輩に学び、応用力は日々の練習で磨きましょう。 |
| 第十八条 | 可撰朋友事 | 友とする者はよく選ぶこと | 互いに高め合える友を選ぼう 「三人寄れば必ず師あり」と言うように、まわりには学ぶことのできる仲間が必ずいます。逆に、無駄な遊びにばかりに熱中する友は避ける方が良いでしょう。よき友を選び、そうでない人とは距離を置く考えることも大切です。 |
| 第十九条 | 可修理四壁垣牆事 | 外壁・垣根の修繕 | 必要な修理や整理はすぐにしよう 家の壁や垣根のような自分の持ち物が壊されたらすぐに直し、手入れをしましょう。誰かに任せるときも、その場しのぎで済ませないよう注意し、自分で責任を持って確認しましょう。 |
| 第二十条 | 門事 | 門の管理を徹底すること | 防犯意識をもとう 家の門を閉めるように、戸締まりや貴重品の管理など、危機意識を持って生活しましょう。開閉時間のルールなどをつくることも大切です。ルールへの意識が低いと、思わぬトラブルや危険につながることがあります。 |
| 第二十一条 | 火事用事 | 火元を確認し、常に用心すること | 火の元などの身の回りの危険には常に注意しよう 火の元や電気、事故やトラブル起こりそうな場所などの危険箇所は、毎日自分で確認しましょう。また、必要な注意を周りの人に伝えることも大切です。誰かに任せる場合も、まず自分で状況を把握してから人に任せるようにしましょう |
| 第二十二条 | 文武弓馬道事 | 文武両道を旨とすること | 勉強と運動、知識と技術、心と体、それぞれどちらも大切にしよう 片方だけに偏らず、どちらも兼ね備えるよう心がけましょう。 |